

## 再発見！何でも見てやろう トピックス（4月）

### 當麻寺練供養会式鑑賞

令和6年4月14日

池上 憲治



當麻のお練り・當麻れんぞの名で親しまれている「當麻寺練供養会式」は、正式には「聖衆来迎練供養会式」という歴史的に名高い法会で、天平の世に生まれ、29歳で生きながら西方浄土へ迎えられた伝説の女性・中将姫の伝承を再現した荘厳な宗教劇で、1000回以上開催されております。

763年、都に生まれた中将姫は早くに母を亡くし不遇の幼少期を送ります。ある日、二上山に沈む夕日に阿弥陀如来を見たことから當麻寺に足を運び、修行します。そして29歳の春、當麻寺曼荼羅を一夜で織り上げた後、菩薩たちに導かれ極楽浄土へ旅立ったといわれています。



練供養は、中将姫が二十五菩薩によって極楽浄土へ導かれる様を演劇風に再現しています。来迎橋（本堂から娑婆堂にかけられた現世と浄土をつなぐ橋）の上を、金色の面の観音菩薩が中将姫の小像を蓮台に乗せ、極楽浄土に見立てた本堂へ向かって、勢至菩薩や他の菩薩とともに練り歩いていきます。観音菩薩は両手で蓮台を左右にすくい上げる所作を繰り返して進むことから「スクイボトケ」、続く勢至菩薩は合掌しながら練り歩くことから「オガミボトケ」とも呼ばれています。

現在では全国各地で練供養が行われていますが、寛弘2年（1005年）に恵心僧都源信が始めたと伝えられるこの當麻寺の練供養が元祖だといわれています。

毎年4月14日に行われるこの當麻寺練供養会式を再発見の4月の行事として、1年以上前から企画して本年実施する事が出来ました。181人の受講生全員を対象とした行事で、多くの受講生が参加しました。間近に観音・勢至菩薩の所作と25菩薩の神々しい行進を観る事が出来、来迎とは何かを感じ取る貴重な機会であったと思われまます。

